

平成26年度
第2回うるま市補助金審査委員会における意見、評価のまとめ

日 時 平成26年9月12日（金）午後1時～午後5時30分

場 所 健康福祉センター（うるみん） 2階第2交流室

出席委員 佐藤 学（委員長）、福原 徹、玉栄 章宏
池原 トモ子、川野 悦子、山城 栄子 （計6名）

事務局員 重島室長、瑞慶山係長、上江洲、名嘉眞

担 当 課 生涯学習振興課 伊波課長、関根主査
介護長寿課 上門課長、座喜味副主幹兼係長
保育課 重村課長、具志堅主幹
喜久山係長、川端副主幹兼係長
安里、柳

私立幼稚園就園奨励費補助金【学務課】・・・・・・・・・・・・・・・・

「私立幼稚園就園奨励費補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

当該補助金は、私立幼稚園に通園する園児の保護者の経済的な負担軽減が図られ、幼稚園教育の振興に寄与していることから必要性は高いと考える。

私立幼稚園は、公立幼稚園に比べ児童数、保育料・入園料に差があることから、本補助金による支援は教育の場の拡大に繋がることが期待できる。

今後は、私立幼稚園の動向を把握し、平成27年度の子ども子育て支援新制度にしっかり対応できるよう、支援方法の検討に努めていただきたい。

また、国の基準である所得制限の撤廃及び多子世帯の全世帯補助に向けては、市の財政状況等を加味しながら慎重に検討していただきたい。

うるま市老人クラブ連合会補助金【介護長寿課】・・・・・・・・・・

「うるま市老人クラブ連合会補助金」の評価のまとめ

総合評価

C：効率化・コスト削減の方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

高齢化社会が進展する中、市老人クラブ連合会の役割は大きくなっており、高齢者福祉の観点から必要性が高いことは理解できる。

しかし、老人クラブ連合会加入会員数は年々減少傾向であり、加入率の向上を図るには、より魅力的な活動や事業を展開するなど更なる努力が必要だと考える。

役員手当が市老人クラブ連合会及び各支部でそれぞれ支出されていること、会費に比べ補助金による歳入が多いこと等から、コスト面のスリム化を促すとともに、より充実した活動を推進するよう働きかけるべきである。

また、補助金の使途、補助率、補助単価等を明確にし、透明性のある補助金交付に向けた改善を求める。

うるま市単位老人クラブ補助金【介護長寿課】・・・・・・・・・・

「うるま市単位老人クラブ補助金」の評価のまとめ

総合評価

C：効率化・コスト削減の方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

高齢化社会が進展する中、地域を拠点とした単位老人クラブの役割は重要であり、高齢者福祉の観点から必要性が高いことは理解できる。

しかし、ほとんどの単位老人クラブにおいて、補助額以上に余剰金が多いことから補助の必要性に疑問がある。

今後は、交付手続きの適正化、簡素化及び事務の効率化の観点から、市老人クラブ連合会を経由した交付を検討するなど、補助金交付の仕組みを改善するよう求める。

うるま市在宅介護者の会補助金【介護長寿課】・・・・・・・・・・・・・・・・

「うるま市在宅介護者の会補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

在宅で高齢者介護をしている家族の支え合いの場、それを支援する「在宅介護者の会」の役割は理解できるが、加入促進に向けた周知が十分でないように思われる。

高齢化社会が進展する中で、支援が必要な介護者は今後も増加することが想定されることから、積極的な周知により対象者の加入促進を図りたい。

また、更なる在宅介護者の心身のリフレッシュを図るため、さまざまな事業と連携する取り組みが必要だと考える。

一方で、補助団体として監査機能を有していないことや補助対象経費等が不明確であることから、担当部署は、同会への指導及び交付要綱の見直しなど改善が必要である。

うるま市敬老会事業補助金【介護長寿課】・・・・・・・・・・・・・・・・

「うるま市敬老会事業補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

高齢者の長寿を祝福し、敬老の意を表する敬老会実施事業に対し、補助することは理解できる。

今後は、交付手続きの簡素化、効率化を図る観点から、各自治会に関連する補助金又は事務委託費へ敬老会事業経費を含める等、支援方法を検討し改善していただきたい。

地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業補助金【保育課】・・・・・・・・

「地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業補助金」の評価のまとめ

総合評価

A：更に充実させる方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

自宅保育している保護者の育児負担の軽減及び子どもの健やかな育ちを支える事業への補助金であり、必要性は高い。

一時預かり事業の実施個所数が減少していることから、保育士確保などの方策を講じながら、事業実施個所数の増加に向けた努力が必要である。

また、地域子育て支援センター事業の実施個所数は目標値に達しているが、利用者数の増加に向けた努力が必要である。

今後は、事業の拡充も視野にいれながら、平成27年度の子ども・子育て支援新制度にしっかり対応できるよう、より充実した子育て支援に努めていただきたい。

うるま市法人保育所運営助成金【保育課】・・・・・・・・

「うるま市法人保育所運営助成金」の評価のまとめ

総合評価

A：更に充実させる方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

当該補助金は、障がい児を受け入れ健常児とともに集団保育を行うことで、双方の発達・成長に繋がる支援であり、実施保育園の経費負担軽減のため必要だと考える。

障がい児保育に対する知識経験等がそれぞれの加配保育士で異なることから、より充実した研修会の実施や巡回指導を行い、市全体の保育士のスキルアップを図っていただきたい。

今後も、実施保育園に対する支援を継続し、安心して障がい児保育ができるような環境を構築しながら更なる保育行政の充実を努めていただきたい。